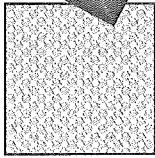


関西いのちの電話



ふれあうところ☎06-6309-1121

2005.7
Vol.124



曹洞宗・祥雲山 頼光寺「あじさい寺」(川西市東畦野)

「風」 P2

「相談員ノート」 P2

「いのちの電話の仕事としての聴くということ」 ... P3

「2004年受信状況」 ... P4

「共感ってなに？」 ... P5

「国見峠だより」 P5

「チャリティコンサート」
..... P6

K 風 A

「ただ、そこにいるだけ」

関西いのちの電話 事務局長 八尾 和彦

最近、1970年代の音楽が静かなブームになっているらしい。これは、団塊の世代の感傷からなのか、そこには音楽業界の思惑が先行しているのかどうかはわからない。とにかく、その頃の音楽が、時おり耳に入ってくる。テンポはゆるやか。メロディはシンプルで、歌詞はわかりやすい。そして、何よりも温かみがあり、人間臭さがある。音楽の中で、当時は悲観的、絶望的のように思われたことも、今となっては、むしろ楽観的と言うか、希望的な匂いさえ感じられる。この静かなブームは一体何だろうかと思う。閉塞的な社会から一歩二歩退いて、もう一度出直したいという気持ちのあらわれなのだろうか、もっとのんびりやっていきたいという気持ちからなのだろうか。いろいろ思いを巡らしてみる。

そんなとき、一人の幼なじみの友だちを思い出した。その人は60年代終わりごろ世に出たシンガー・ソング

ライターの一で、「フォークの神様」と言われた岡林信康。昨年春、豊中でコンサートがあり、30年ぶりに顔を合わせた。姿、顔立ちは昔とほとんど変わらない。ど素人であった彼が、今もなお、シンガーとして舞台上で歌い続け、生活していることに、感心し感動もした。小さい頃の盆踊りの江州音頭に魅入られたと言う彼は、太鼓や笛の音とともに日本の民謡調の歌をエネルギーに歌っていた。そして、おなじみの「山谷ブルース」、「チューリップのアップリケ」も聴かせてくれた。

彼は、流行とははるかに縁遠いところにいる。おそらく、そのことで悩み苦しむ時期もあっただろうが、ともかくも自分の「世界」を持ち続けているように思えた。一歩二歩退くわけでもなく、ことさら、のんびりと言ったような気持ちがあるわけでもない。ただ、そこにいるだけのようである。



— シャボン玉ひとり言 —

32期 A. M

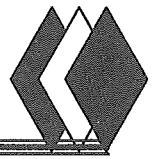
緑豊かな木々や色鮮やかな花々、野鳥のさえざりと自然の美しさを存分に満喫できる…。ここは、吉野山。その昔、義経と静御前の永遠の別れとなった大ロマンスの舞台でもある。兄頼朝の追手から逃れて数日間を過ごしたとされる「義経潜居の間」がある。運命に翻弄され追いつめられていく義経の心情はいかばかりだったか…。ふと部屋の片隅に目をやると「弁慶思案の間」があった。この弁慶、義経を警護するのみならず主従関係、上位下位を超越し精神的にぴったり寄り添って心身共に義経を支えていたのではないか。

我々が一本の電話線を介して先の見えない不安の只中にあるCIの心に寄り添っている今を重ね合わせて

相談員 ノート

いる自分がいた。唯私は、命をかけてCIと共にあるのでは勿論ない。そこは“真剣に聴いて気楽にいく”養成講座の教えの一つが今も私の心に響く。また、もう一つ教えられたことはCIの「あんな学校、行くもんか！」という言葉から“何を怒っているのやろうか？”とか“学校で何かあったのだろうか…”と思いがちだけれど、CIの今の感情（気持ち）は“怒っている”と捉える、ということだった。養成講座での、この二つを何かの折に繰り返している私。瞬く間に過ぎた8年間。気分転換に、時折こうして自然の中に身を置く。少しは心の柔軟さを培うことになろうか。と、突然「なあ！義経のかくれ塔まで、まだ行くの？30分もかかるよ！」と面倒くさそうな夫の声。大きく膨らんだ私のシャボン玉が弾けて消えた。「そう30分もかかるの？もう4時過ぎやし帰ろう…か。」

「いのちの電話」の仕事としての聴くということ



関西いのちの電話 理事 脇坂 尚子

いのちの電話の聴き手を育てるということは、いのちの電話本来の仕事そのものである「聴くこと」を、よりよく円滑に行なえるようにするための要の仕事である。

相談者の話を聴くこと、気持ちを聴くこと、心を聴くこと。その心を聴くとは、どういうことか。相手の話している事柄を追うよりは、その人の心の動きが感じられて、それに共感すること。それは相談者の心に渦巻いてまだ意識化されず言葉化されていない思いを、聴き手が瞬間につかんで言葉化して返すまでの「深い共感」であってほしい。その時間、相談者の心の結ばれ目がほどけて涙と共に流れたり、心が軽くなる程のものである。

悩みは、一回の相談で終わるはずのものでもなく、繰り返しかけてくる人は実に多い。ただ、状況は必ず変わってゆくもので、いつのまにか納まっていく。勿論、問題が納まりきらずに苦しくてかけ続ける人も多い。

この人たちにいくつかの傾向が見られる。一つは、問題がはっきりして素直に話してくれる人たち、それなりに経緯が分かる。急激な電話が終わってから何ヶ月かに一、二回かけてくる。長年の間には、状況的にも心の上でも推移が現れてくる。その人たちは「いのちの電話」を心の縁側として生きてられるのだろう。人が生きていくことへの、言いようのないとしさが溢れてくる。と共に、人に“いのち”の連続性を保つ定点として、位置させてもらえることの幸せも味わってもらえるのである。

一方、自分に触られるのが極度に怖くて「淋しい」「死にたい」「助けて」とそのときの気分のみを訴える人がある。自分は横に置いて、そのときの気分さえ誰か楽にしてくれれば、自分は普通に元気に戻れるのだと、思いたがっている人たち。現実具体的な自分の本当の

問題には触れたくなくて、今、かけている時間だけでも暖かい雰囲気の人間関係に浸りたい人たち。中には攻撃性が先鋭化して相談員にからんで、その反応を見て満足を得ようとする場合も。この人たちの作り上げる幻想は、主観的に味わってきた自分の家族関係、対人関係の悲惨さを極端化したものであることが多く、心の基本的なところでの安定感の欠落が感じられて痛ましい限りである。が、現象的には余りにも電話慣れしていて、応対したあとには、表わしがたい疲れ、納得のゆかなさが残る。そういうものが相手に残ること、そのことが、心の奥深いところで、この人たちが味わい続けてきた、表現しがたい納得のゆかなさを万分之一でも他人に返したという、歪んだ満足になるのかもしれない。現れとしては作話的常習者となるのであろうが、これが男性の性的話題に限ったことではなくなっている。

以前一方で相談常習者、一方で電話相談員、という人に出会ったことがあるが、必死でその人の心の奥の本当の気持ちに働きかけて、最終的には故郷へ帰って結婚された例もある。心を深く閉じた人と出会うには、相談員の心がよほど深く耕されたものに育っていることが望ましい。

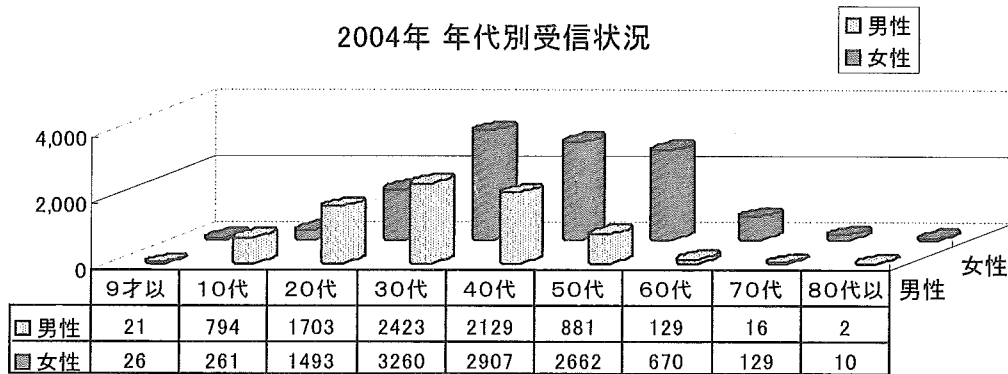
いのちの電話での「養成」「研修」の役割は決定的に大きい。千差万別の性格の持ち主に、それぞれにとっての徹底した自分とのつきあいから始めて、虚構の中に浮かび上がる心に呼応できる心の自由さに育っていただきたいのだから。

今回、いのちの電話の組織改変が始まろうとしている。その中で「いのちの電話」の仕事に何が急務かをよくよく見据えた上で作業が行なわれればと切に希望している。

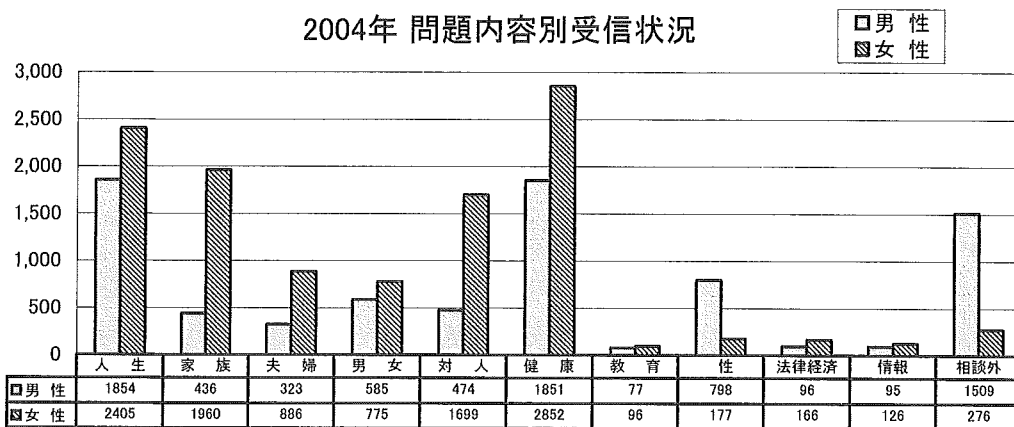
2004年 受信状況の傾向

受信総数 19,516 件、昨年比 268 件減。年代別でみると、30代 29.1%,40代 25.8%,50代 18.2%,20代 16.4%。内女性 30代 16.7%,40代 14.9%,50代 13.0%で総数比で 43.6%を占め、男性は 30代 12.4%,40代 10.9%となっている。問題内容別では、健康 24.1%・人生 21.8%・家族 12.3%・対人 11.1%。いずれも女性からの相談が多い。昨年比で 4 位までの%はそれぞれ若干増加している。男性のみでは、人生 22.9%・健康 22.9%と同率 1 位、合計で 45.8%である。性と相談外(テレフォンセックス)の総数比は 28.5%。昨年比で倍増。こころの病を持つ人の相談は 9,508 件総数比 48.7%、内治療中は 36.5%。いずれも増。自殺傾向は 2,394 件で総数の 12.3%。昨年比 0.7%増。自殺傾向の内訳は 30代 36.5%,40代 26.4%,20代も 20.9%である。自殺総数の多くを占めている。同年代の女性で 56.4%を占めている。また、自殺傾向の 85%が心の病を背景にしている。

2004年 年代別受信状況



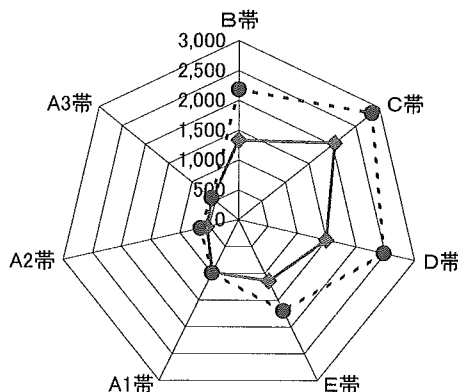
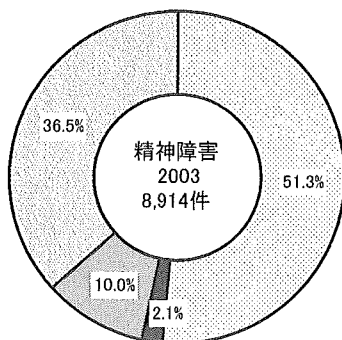
2004年 問題内容別受信状況



担当時間帯別受信数

□無 ■歴有 □疑い有 □治療中

—●— 男性 - - ● - - 女性



B 帯：朝
C 帯：昼
D 帯：夕
E 帯：夜
A 帯：深夜

2004年の
受信状況から

カードを読む会

31年間の受信件数

2004年末累計

551,239件

1年間の受信件数は

総件数：19,516件

男女比：男 8,098

女 11,418

41.5 / 58.5%

ボランティア： 369名

(2004年5月登録)

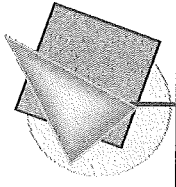
総対応時間：

11,735時間45分

(平均36.1分)

(2005/5/20)

<文責：長尾文雄>



共感ってなに？ (25)

「自問しつつ、そばに居る」

頻繁にかけてくる相談者のなかに、心の病を長年患っている人たちがいます。通院し投薬も受けているけれども、誰も自分の話を十分に聞いてくれない、辛さを分かってくれないと訴える人たちです。

いま1人だから、眠れないから、話を聞いてくれる人がいないから、などの理由を挙げて、さまざまな時間帯に電話をしてくるのです。

精神科医は診察で十分な時間が取れないこともあり、いつでも優しく受容して聴いてくれるいのちの電話を紹介することもあるようです。

心を患っているかけ手は、通院していることや薬を常用していることを率直に伝えてきます。聞き手はどうしても身構えてします。ある聞き手は病気の発症やその後の経過や状況を聞こうと問診のようなことをします。

ある聞き手は病気への取り組みを励ましたり、医師とよく相談することを勧めたり、病気の改善に何らかの解決策がないかと四苦八苦しながら応答を続けます。また、ある聞き手は聴くしかないと覚悟を決めて、相手の納得のいくまで話してもらおうとします。

そして、相手が「眠くなってきた」とか、「少し話せてよかった」と言っていて電話が終わると、聞き手はほっとするのです。しかし、かけ手の状況が改善した、変化したという手ごたえは感じられません。

ここで、相談員は自分の応答はよかったのか、役に立ったのか、自分の聴く力は十分だったのかと自問しつつ、電話のブースを出るのです。

自問を持つことは、聞き手にとっておさまりの悪い感じですが、しかし、かけ手が求めているのは、病状の改善でもなく、変化でもなく、一人ぼっちと感じている気持ちを受取ってほしい、誰かそばに居てほしいという訴えなのではないでしょうか。

長尾 文雄

3月19日、三寒四温も漸く落ち着いた晴天の一日、あるボランティアグループのハイキングがあった。案内状によると、「近鉄石切駅—辻子谷コース—生駒山頂—摂河泉展望コース—額田駅」をたどる計画である。参加者6名。

石切駅で降り、道端の石仏群の中を音川の瀬音や水車の回る音、鶯の初音に耳を傾けながら上り坂に行く。途中の興法寺は役行者の開基といわれる真言宗醍醐派の古刹、境内の時雨桜(枝垂桜の古木)はまだ蕾もつけていないが、椿、クロッカスなどが可憐な花をつけ、静かなたたずまいを満喫する。案内状の「歩行距離7.3キロ」にたかを括って参加したのが間違いで、次第々々の急坂にほうほうの体で頂上に至る。テレビ塔の林立する山頂付近の公園で昼食をとる。3連休の初日というのに公園の各遊具では係員の人待ち顔が目立ち、たまに疾駆するジェットコースターも乗客2、3名では嬌声もこちらまでは届かない。

下りはとろとろと下り一方、節々に見る攝河泉の

展望が素晴らしく、また、冬山から春山への移り変わりがまさに「山笑う」さまで感動を覚える。山頂から枚岡公園までには所々に椿や梅などが咲き、中でも椿は山椿の外、乙女椿や侘助の品種も見ごたえがあった。

下山して「グリーンガーデンひらおか」で小休止、オーガニックコーヒーを楽しみ、額田駅から早めの帰路についた。

私にとっては恰好の吟行日中で、仲間と交わす俳句談義も楽しかった。参加者の中には、花粉症の人や下り坂で張り出した枝にしこたま頭を打ち付けるハブニングもあったが、名リーダーの下無事に一日の日程を終えた。

山椿を訪ねて

沿線のとくたくまっぷ春帽子
森閑と花粉たゆたふ椿寺
山寺の苔かきわけてクロッカス
昼餉とる眼下に霞む攝河泉
なかんづく乙女椿を褒めにけり

檀 清々

日下部吉彦のレクチャーコンサート

— 子守唄は、だれのもの? —

<ソプラノ> 篠原 美幸 <ピアノ> 今岡 淑子 <おはなし> 日下部吉彦

♪日本のこころ♪・日本の子守唄 五木の子守唄 竹田の子守唄 他

♪西洋のこころ♪・西洋の子守唄 ブラームスの子守唄 シューベルトの子守唄 他

日時/2005年7月30日(土) 開場/15:30 開演/16:00 場所/いずみホール

チケット代 前売 2,000円 当日 3,000円

—チケット取り扱い—

◎いずみホールチケットセンター (TEL 06-6944-1188)

◎関西いのちの電話事務局 (TEL 06-6308-6868)

*当日は、座席指定です。未就学児童のご入場はご遠慮ください。



全国研修担当者セミナーのおしらせ

— 今、「いのちの電話」を考える —

日時/2005年7月29日(金)午後2時30分~30日(土)午後3時30分

場所/ホテル阪急エキスポパーク

交通アクセス/新幹線新大阪駅より地下鉄・モノレール(万博記念講演駅下車)

伊丹空港よりモノレール(万博記念公園駅下車)

講演Ⅰ 講師:真壁伍郎氏「自殺予防のいのちの電話-信頼される電話相談を目指して-」

講演Ⅱ 講師:下園壮太氏「自殺の危機とカウンセリング」

【分科会テーマ】

- ①スーパービジョンのあり方 ②相談員継続研修のあり方 ③電話相談「困難事例」への対応
④指導者養成の問題 ⑤養成部・研修部の組織

関西いのちの電話事務局

相談電話受信件数

受信月	3月	4月	5月
受信件数	1,560件	1,596件	1,653件
相談員数(延)	422人	436人	450人

<ありがとうございました>

NTT ドコモ関西 様 50万円
NTT 西日本 様 10万円
NTT 西日本大阪支店 様 10万円
塩野義製薬株式会社 様 5万円
大阪東淀ロータリークラブ 様 5万円
M. Y. 様 10万円

※ 長く連載しておりました「字遊帳」は、前号をもちまして終了いたしました。次回より、新しい企画を予定しております。お知らせが遅くなり申し訳ありません。

— 編集後記 —

小さな畑を借りた。土を耕し、苗を植え、手をかけ育てる。そして花が咲く。

野菜の花は、可憐で素朴だ。その素朴な花々が、鮮やかな色のみずみずしい野菜を作り出す。

今、眩しいばかりの夏の光を浴びながら、茄子、トマト、胡瓜、ピーマン等がたわわに実をつけている。

近頃忘れていた何かを野菜たちからもらっているような気がする。

N. K

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL. 06-6308-6868 FAX. 06-6308-6180

発行人 今村 一之 編集 広報・編集チーム

ホームページアドレス <http://www.age.ne.jp/x/kaind/>